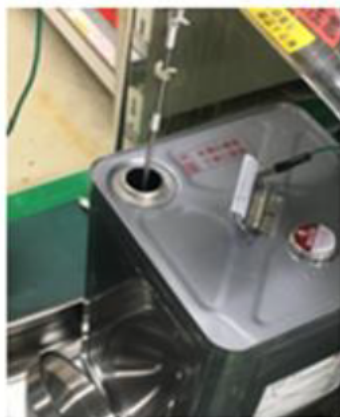


「見える」安全活動コンクール応募資料

容器内液量の見える化で液漏れ防止

【写真・資料】



【「見える化」内容・PR】

<対策前>

検査機器から排出される危険物を含む廃液を、金属製の一斗缶に回収している。ガスの拡散を防ぐため入り口が狭く、フタが出来る容器を使用しているが、入り口が狭いために廃液量が目で見えず、確認に時間が掛かるだけでなく、入れすぎてあふれさせてしまう事があった。

<対策後>

金属棒を探して来て、専用の検尺棒を作製した。廃液量を目で見て分かる様にできたので、あふれる心配もなく、効率的に自信を持って作業できるようになった。